

大泉

セーフティ教室から

校長 中岡 盛一

六月九日、十日の学校公開日には延べ九百二十三名の保護者、地域の方に御参観いただき、土曜日は教室が一杯の所が多くなりました。一年生は初めての参観日で、元氣よく手を挙げたり発言したり、大いに張り切っていました。その参観日九日にセーフティ教室を開催しました。東京都のファミリールール事務局 篠原正先生を講師に、一〜三年、五組は「ネット・ケータイのかしこいつきあい方」四〜六年は「ネット・ケータイを上手に使うためのルールとマナー」を学びました。子供たちにとつてパソコン、スマホ、ケータイが身近で自身で所有している場合があり、ゲーム機でもSNSやオンラインゲームで顔の見えない相手とやり取りしている状況もあり、今年度はネット、ケータイ、スマホの仕組みや扱い方に特化してセーフティ教室を計画しました。

保護者向けの話の中で、家庭でのルール作りの三つのコツを教えて頂きました。①小さく具体的に守りやすいルール
ルールを作る際は「夜八時以降は、ケータイを親に渡します。」など、小さく具体的に守りやすいルールを作成してみましょう。

②子供自身にルールを決めさせましょう。
ルールを作る際は、親が一方的に子供

<発行>
練馬区立大泉小学校
<所在地>
練馬区東大泉 4-25-1
TEL 03-3924-0144
FAX 03-5387-2092



に押し付けるのではなく、親子の共通理解のもとに子供自身にルールを決めさせることが大切です。ルールを守る意識は自分で決めるからこそ意味があります。親は子供の決めたことをしっかりと見守るようにして下さい。自らルールを決めることが難しい年齢のお子さんの場合は、親がいくつかルールを設定してあげてその中から選べるようにすると良いでしょう。

③ルールを二重構造にしておきましょう。
もし子供が決めたルールが守れなかった場合のルール(メタルルール)も決めておきましょう。これは罰則ではなく、約束を破ったときに自ら責任を取るためのものです。メタルルールは必ず守らせましょう。ルール作りを二重構造にすることで、家庭のルールの効果がぐんとあがるはずです。

この①②③を生かして各家庭でお子さんと話し合われて、ネット、ケータイ、スマホ、ゲームなどの使い方のルールを作られると良いと思います。基となる「SNS大泉ルール」も配付させて頂きます。学校としては、「欲しがる、ご褒美やプレゼントで」など安易に持たせないことをお願いしたいと思います。

いよいよ二十一日から四十二日間の長い夏季休業日が始まります。サマースクールや夏季水泳に積極的に参加させて頂きたいと思えます。九月に元気で子供たちを迎えたいと思えます。楽しく有意義な夏休みをお過ごし下さい。

7月・8月の行事予定

- 7月
 - 3日(月) 安全指導・点検
 - 4日(火) 避難訓練
 - 5日(水) 4時間授業
 - 6日(木) 下宿泊学習前日検診(五)
 - 7日(金) 都・学力調査(五)
 - 8日(土) 下宿泊学習開始(五)
 - 9日(日) 委員会活動
 - 10日(月) 保護者会(34)
 - 11日(火) 土曜授業日
 - 12日(水) 特別時程4時間授業
 - 13日(木) 下宿泊学習終了(五)
 - 14日(金) ことばの相談日(ことば)
 - 15日(土) 保護者会(12)
 - 16日(日) 保護者会(56)
 - 17日(月) クラブ活動
 - 18日(火) 海の日
 - 19日(水) 大掃除
 - 20日(木) いじめ調査
 - 21日(金) 一学期終業式 給食終
 - 22日(土) 夏季補充教室
 - 23日(日) 夏季補充教室
 - 24日(月) 夏季補充教室
 - 25日(火) 夏季補充教室
 - 26日(水) 夏季水泳指導
 - 27日(木) 夏季水泳指導
 - 28日(金) 夏季水泳指導
 - 29日(土) 夏季水泳指導
 - 30日(日) 夏季補充教室
 - 31日(月) 夏季休業終
- 8月
 - 1日(火) 28日(月)

7月の生活目標 「時間を守って生活しましょう」

「時は金なり」という諺を知っていますか。時間はお金と同じように非常に貴重なものなので、無駄に浪費をしないでできる限り有意義に使おう、という意味合いの言葉になります。この言葉は、アメリカ合衆国建国の父と言われている、ベンジャミン・フランクリンが著した「若き商人への手紙」という本の中で語られています。この言葉自体はもともと商人へ向けた言葉でした。なので、少し今使われている意味とは違う意味だったのですが、日本に伝わり、前述の意味になったのです。

時間とお金、それはどちらも大切なものです。しかし、大きな違いがあります。お金は置いておいても減りませんが、時間は何もしなくても減っていききます。五年生は六月に移動教室がありました。集団生活を行う中で、一人が遅れると、それを待たするために大勢の友達が待たされる場面が何度もありました。結果的に活動時間が短くなったり、急いで行動しなければいけなくなったりしてしまいがちで、時間の大切さを身をもって実感することができました。

では、時間を守るためにはどんなことを意識すれば良いのでしょうか。特に意識して欲しいのは、「5分前行動」です。時間ぴったりに間に合うように行動するのではなく、余裕をもって行動する。予め決まっている時間よりも早く行動をする癖がつけば、何か予測をしない事態に直面した際にも対応ができます。余裕をもった生活を送れるよう、早め早めの意識をしてみてください。

(西村 悠樹)

五年移動教室

六月十五日からの二泊三日、武石移動教室にいつてきました。
訪れた下仁田こんにやく道場、松井農園、黒よう石体験ミュージアムでは、その地域の産業や歴史ならではの学習を深める機会となりました。

二日目にはお天気にも恵まれ、予定通り車山山頂から山歩きをすることができました。汗ばむ中での三時間近くの活動でしたが、山頂からみた広大な景色や、レンゲツツジなどの季節の植物の発見、子供たち同士の「足元気をつけて。」の気遣いのある声かけのおかげで、訪れた先の自然を楽しみむ気持ちよい時間を過ごすことができました。

ベルデ武石の宿舍の生活に向けては、出発前から班や係に分かれて準備を進めました。はじめての移動教室の生活に対してイメージをもちづらかったところもあったかと思いますが、当日が近づくとつれて休み時間や放課後に友達同士で準備を進める姿を見て嬉しく思いました。

現地での生活、一日目は自分たちの生活を自分たちで進めていくという点で反省が残りましたが、指摘を受けた後の二日目、三日目はそれを生かそうと一生懸命になりました。上履きをそろえる、カーテンをしめる、消灯時間を守るなど、一つ一つは当たり前のことですが、生活を丁寧に考えられたことは立派でした。

子供たちが感じた、友達と力を合わせて行事を乗り越えた充実感は大切にし、残した反省や課題には真剣に向き合っていきたいと思っております。

(比護 明日香)

六年移動教室

今回は天候と干潮のタイミングに恵まれ、磯での観察を存分に楽しむことができました。様々なカニやヒトデ、ウミウシなど次々と見つけていく探究心を嬉しく思いました。また、地引き網体験では、蛸や真鯛など数々の収穫がありました。

鱈の開き作りにも挑戦しました。上手に包丁を使って一人三匹の鱈を見事に捌きました。他にも鋸山登山、鴨川シーワールド、歴史民俗博物館で充実した時間を過ごすことができました。

五年・六年の移動教室を通して子供たちに伝えたことは、山と海の魅力に学ぶことです。五年時もイノシシ等の痕跡探し、林業体験といった山ではのわくわく感を感じてもらうことができました。

移動教室後には一人一テーマの発表をしました。子供たちは、自分たちの見つけたカニ、鋸山からの眺望、地引き網で捕った魚など、各自のテーマを自分の言葉と資料で発表しました。時間が大幅に過ぎてしまい、担任の進め方には大いに反省点がありました。が、子供たちの発表の端々から自然体験で得た感動と自分の発見への自信を垣間見ることができました。学習上手は探究上手。知的探究心と伝える力は教科名にはありませんが、一番の主要教科だと考えています。今後、もそういう力を育てたいと考えています。

キャンプファイヤーでは、レク係の児童がサプライズで用意した「友達はいいもんだ」の全員合唱で盛り上がりつつ終わりました。一人一人が友達はいいもんだを真に実感できる一年にしたいと思いを新たにしているところです。

(壺坂 憲司)

校内研究について

小学校では、校内での学習や活動の指導を高め、子供達により効果的な教育を実施し、力をつけていくために、校内研究を行っています。年間を通じて、テーマと教科を設定し研究授業を行っています。

今年度の大泉小学校の研究は、『一人一人の力を伸ばし、未来に繋がる力の育成』をテーマに研究を進めます。一月に五組が、練馬区の特別支援教育発表校として大泉中の十組と合同で体育の授業を発表します。小中九年間を見通して、指導計画を見直し、体育の具体的な実践を通して力を養う研究です。

通常学級については平成三十年年度から実施される、新学校指導要領の中に表されている力について研究していきます。「体験活動の充実」や「道徳教育の充実」について等が、新たに改善事項が掲げられています。その中でも「外国語教育の充実」について、高学年は外国語活動から英語科へ、そして中学年からの外国語活動が始まることとが表記されました。英語の力、というよりも、コミュニケーションをよりよく図る力を育む活動を通して、研究を深めていきます。

どの学年、どのクラスも、限定された教科や活動だけでなく、発達段階に即した力を伸ばしていきけるように力を養うことが目的です。そのために教員の資質向上を狙うことも、この校内研究の目的であります。私たち教師も日々変わっていく教育課題に向き合い、研修を積み重ねていきます。

(波江野 礼子)

障害理解教育について

大泉小では毎年、障害理解教育として、各学年の発達段階を踏まえた活動に取り組んでいます。
本校の障害理解教育年間指導計画から各学年の内容をご紹介します。

- 一年 「ぼくにできること」
- 二年 「ぐみの木と小鳥」
道徳の時間を活用し、困っている人や弱い立場の人を思いやる心を育てます。
- 三年 「小泉牧場ふしぎ大発見」
五組の友達と一緒に酪農体験を通して交流を深めます。
- 四年 「目が不自由って・・・」
視覚障害をお持ちの方を講師としてお招きし、お話をうかがったり、点字体験をしたりします。
- 五年 「手話を学ぼう」
練馬区聴覚障害者協会のご協力をいただき、手話体験を通して聴覚障害について学びます。
- 六年 「車椅子体験をしよう」
重度身体障害者の方と交流し、地域の中で関わり合いをもてる知識や技能の習得を目指します。

これらの活動を通して、相手を思いやり、自分と違う点を受け入れる気持ちを育てたいと考えます。そして、大泉小の児童が、今以上にお互いを尊重し合えるようになってほしいと願っています。

(大木 篤)

